

十和田湖1000年会議
令和6年度 第1回

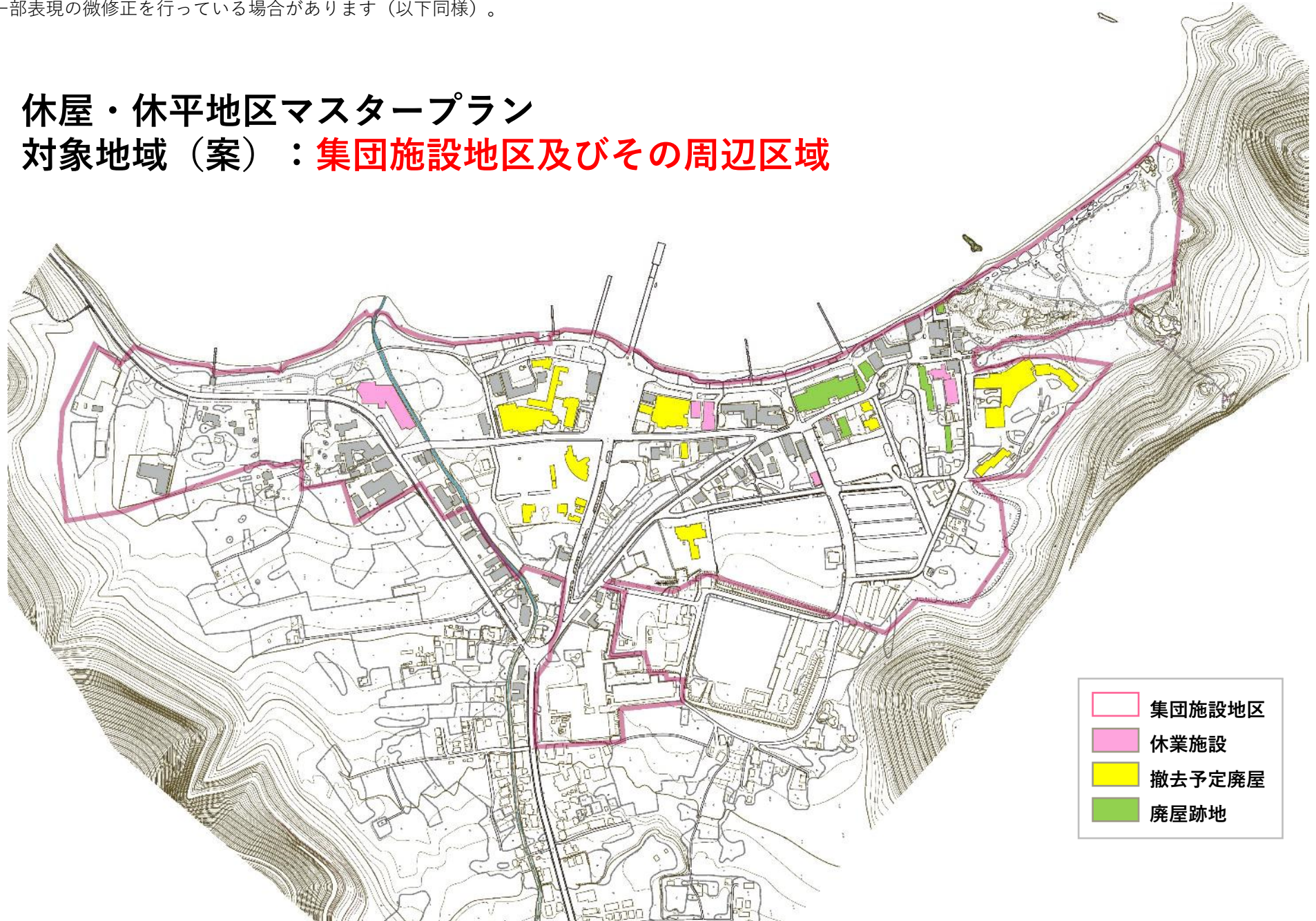
マスタープラン骨子
補足資料

令和6年10月8日

環境省 東北地方環境事務所 十和田八幡平国立公園管理事務所

※WG資料から一部表現の微修正を行っている場合があります（以下同様）。

休屋・休平地区マスタープラン 対象地域（案）：**集団施設地区及びその周辺区域**



昨年度の地域WGから出た地域が考える十和田湖地域の魅力

十和田湖の美しさ



十和田信仰 (=自然崇拝)



ヒメマス



空間を通じて伝えられるもの
→マスタープランでの議論の対象

【空間での表現方法】

- ・湖畔まで来て、湖の美しさを十分に享受してほしい
→湖畔まで来てもらう仕掛け・工夫
- ・湖面から見た風景の保全も重要
→穏やかな湖面と雄大な外輪山が広がるパノラマを保全し、磨き上げる

【空間での表現方法】

- ・親しみやすさと厳かさ
→自然を慈しむ場であることの表現
(信仰のように間口は広く、入り込むほどに厳かに)

インタープリテーションを通じて伝えられるもの

【IPでの表現方法】

- ・食事から生まれる感動体験への導線
→ヒメマスの食体験をきっかけにその背後にあるストーリーへ誘う

基本構想
「地域の目指す姿」

十和田湖 北奥をいつくしむ365日

休屋・休平地区の
土地利用方針
(案)

穏やかな日常と十和田信仰の歴史を育んだ
自然がもてなす滞在の高付加価値化を目指す

（穏やかな日常）

ゆとりの敷地、移動速度の低下、水際と緑が手に取れる場所

（十和田信仰の歴史）

古道と結界の顕在化、十和田神社、信仰の玄関口

（育んだ自然）

四季の移ろい、地形と火山活動が織り成す透明度の高い水質と生態系

（滞在の高付加価値化）

水際の環境保全、厳しい制約条件、廃屋跡地の一部に宿泊施設等の誘致を検討

基本構想

5 宿泊施設の方向性

(1) 宿泊施設の担う役割

十和田湖地域には、複数の宿泊施設があり、これまで、多くの観光客や教育旅行の受け入れやもてなしを行い、十和田湖やその周辺地域の観光の軸足としての機能を果たしてきました。

一方、近年観光客のニーズの変化が目まぐるしく、これまでの量に偏重した宿泊施設では、事業の成立が難しいことや感動体験を提供する機能が不足することが考えられます。同時に、十和田湖地域が抱える季節偏重の大きさや滞在時間の短さといった課題に対応する上で、宿泊施設の役割はますます高まっています。

国立公園・十和田湖地域の宿泊施設として、既存・新規ともに、以下の方向性を指すことで、利用の高付加価値化の拠点としての役割を担うことを期待します。

①感動体験を提供し、自然環境・地域社会への理解・愛着の醸成に貢献する

利用者がもっとも多くの時間を過ごす利用拠点として、感動体験につながる情報提供、インタープリテーション計画にもとづく丁寧な説明を行うことで、利用者の自然環境・地域社会への理解・愛着を醸成し、地域の持続性への理解と協力が拡大していく好循環を生み出すことに貢献します。

②利用対価を自然資源・環境整備への再投資に貢献する

自然資源の受益者である利用者から利用対価を適切に受け取り、周辺の自然環境や文化資源の保全、利用施設の整備・維持管理に再投資する仕組みに一員として貢献することを期待します。

③自然資源の受益者として再認識のもと、自然再興・脱炭素へ貢献する

建築・改修時や事業運営における環境影響を念頭に置き、事業における廃棄物の削減（建築廃材・廃棄物等の削減、資源消費の最小化）、利用資材品の選定（脱炭素・脱プラスチック・木材等の再生可能資源・再生品の利用、バイオマス資源の利用等）、エシカル消費の促進を前提とし、自然再興・脱炭素へ貢献することを期待します。

(2) 高付加価値化のための宿泊施設の方向性

十和田湖版インタープリテーションの主な対象者は、自然体験アクティビティの利用者または複数泊・長期滞在者です。

そのため、前述の宿泊施設の役割を認識した上で、高付加価値化のための宿泊施設の方向性として以下を考えます。

①地域の自然体験と連携した十和田湖地域に浸ることのできる宿泊施設

地域の自然体験アクティビティと連携し、宿泊施設内でも自然資源の成り立ちや十和田湖の歴史・文化に触れることのできる施設を想定します。

- 例）・宿泊日数・希望体験に沿った滞在プランがある
 ・十和田湖の自然を感じられる、体験できる空間がある
 ・十和田湖の歴史に触れられるライブラリがある

②複数泊・長期滞在向けの宿泊施設

複数泊・長期滞在に向く施設として、滞在中の移動が容易であることや食事の選択肢が多いこと、ワーケーション施設が整っていること等が考えられます。移動の容易さ、地域内の飲食施設・ワーケーション施設等との連携も踏まえた施設を想定します。

- 例）・周辺地域のアクティビティや温泉等と連携した滞在プランがある
 ・ワーケーション施設を有する

③地域とのつながりを生む宿泊施設

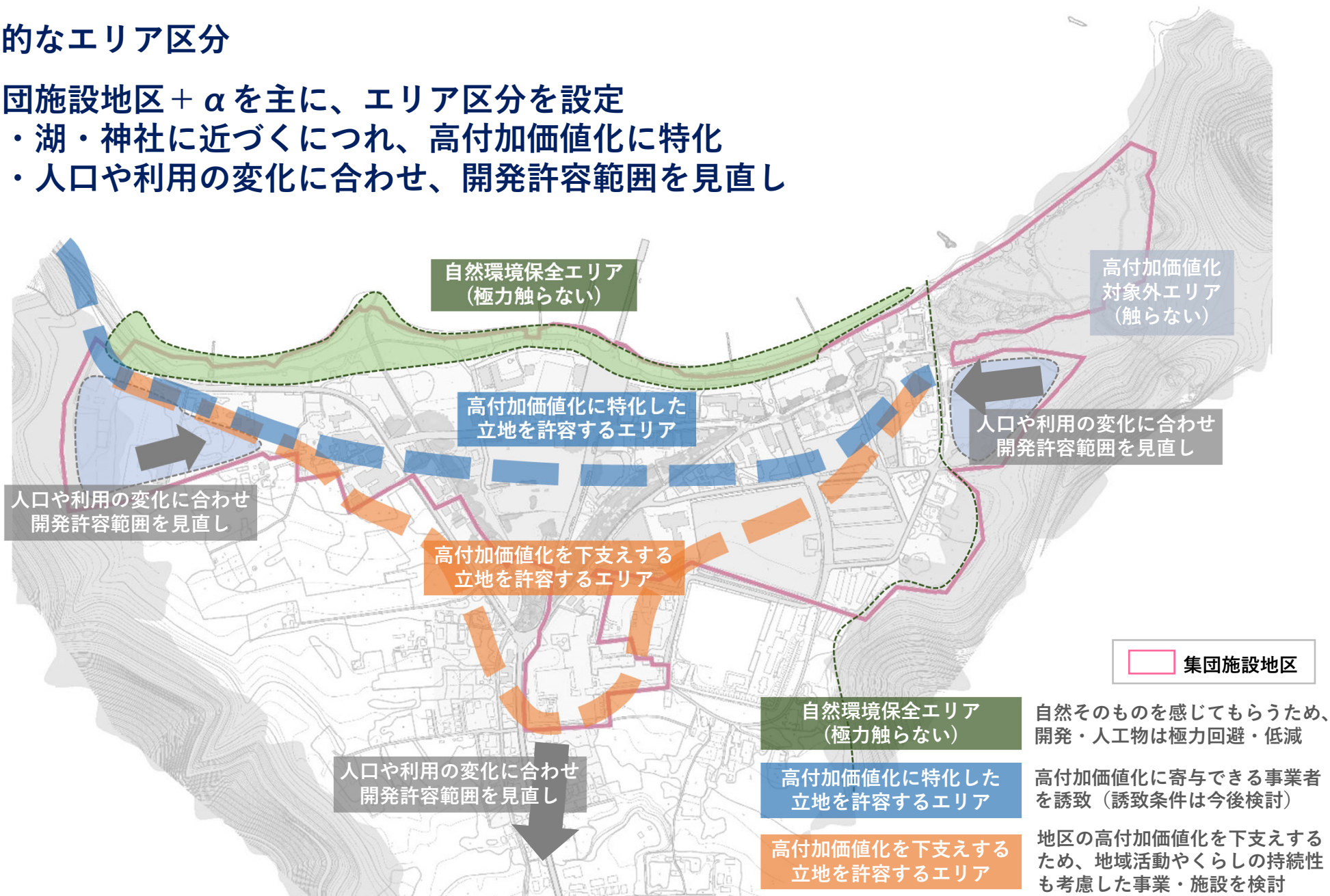
交流人口・関係人口の需要の高まりが強くなっていることや、地域とのつながりが来訪者の再来動機に大きく貢献することが考えられます。ボランティア等の地域への貢献、地域の人との交流機会を設け、地域とのつながりを生む施設を想定します。

- 例）・地域行事やボランティアへの参画機会を紹介できる
 ・地域の人も利用する飲食施設があり、交流できる

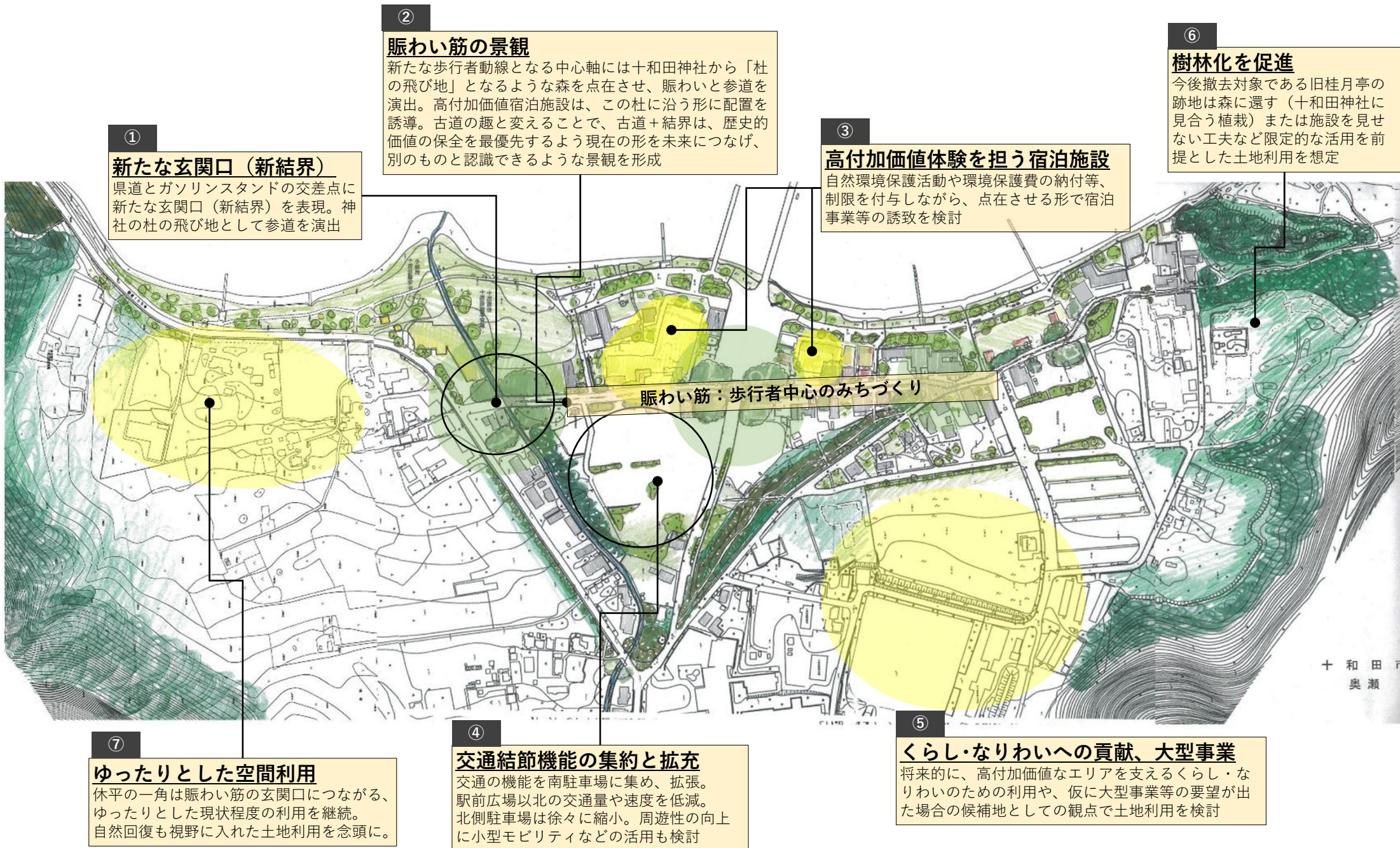
将来的なエリア区分

集団施設地区 + α を主に、エリア区分を設定

- ・湖・神社に近づくにつれ、高付加価値化に特化
- ・人口や利用の変化に合わせて、開発許容範囲を見直し




将来（概ね20年後）の土地利用像（案）



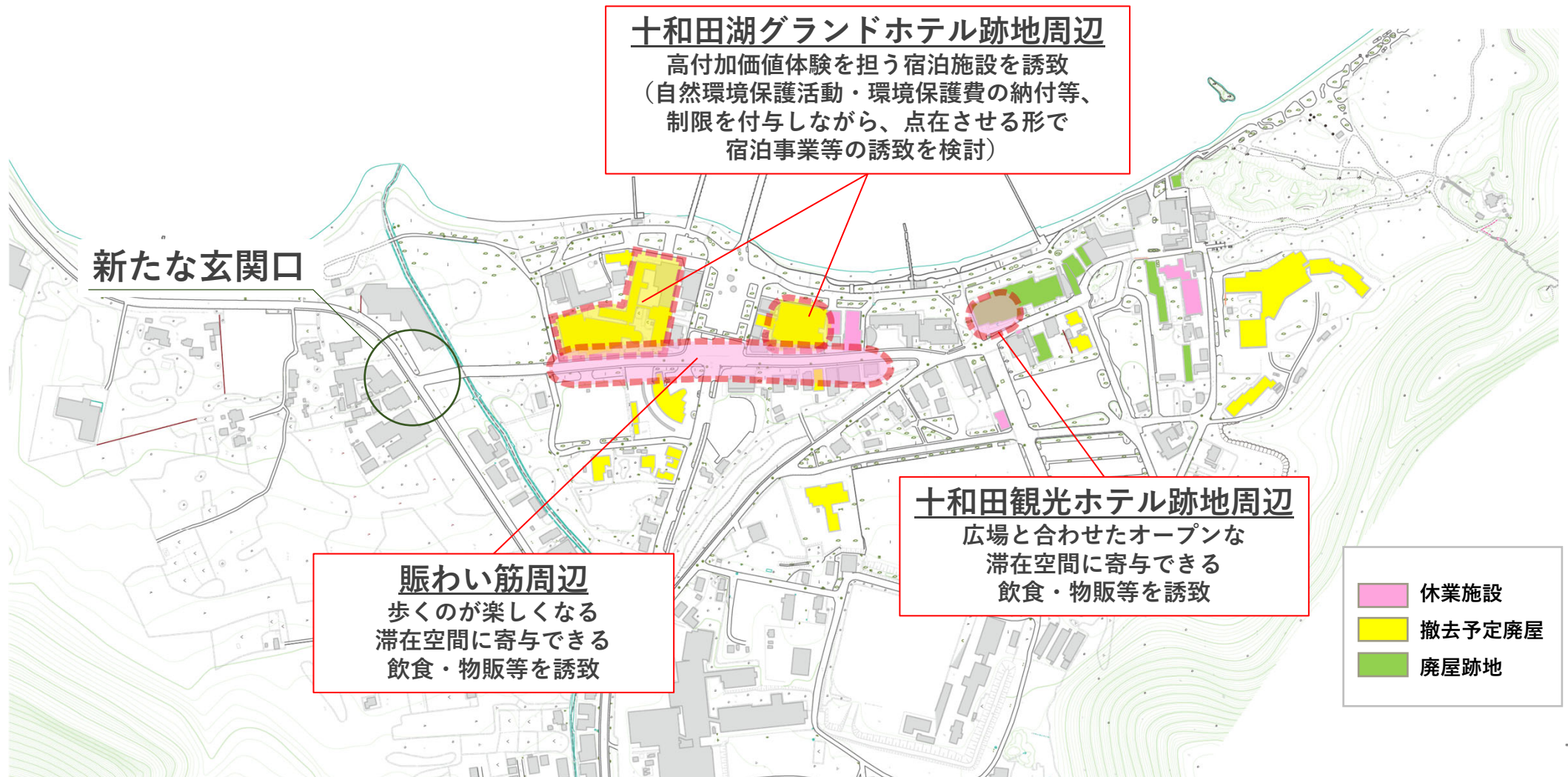
事業誘致の想定箇所（案）

廃屋跡地等への事業誘致（次年度以降に着手）

- ・ 跡地・遊休施設への利用の呼び込み
- ・ 賑わい筋での寄り道場所の増加

 宿泊を中心とした誘導箇所

 飲食・物販を中心とした誘導箇所



将来土地利用像へ向けた実現ステップ（案）

◆実現に向けた時期別取り組み事項

